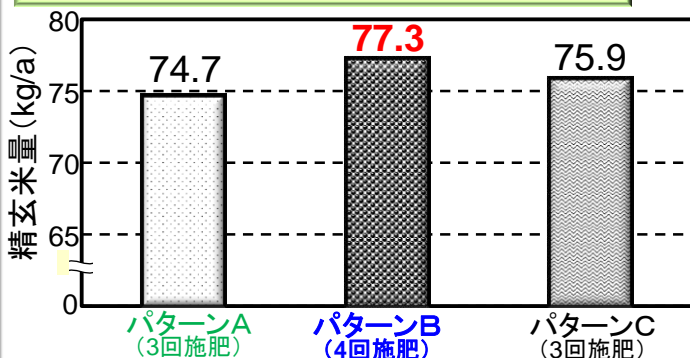


# 収量と品質を安定させる酒造用米 「京の輝き」専用の基肥一発型肥料を開発 (農林センター)

## 主旨

- ・酒造連が求める供給量と品質に対応するには、安定生産技術の確立が急務 (H26年 600 t → H29年目標 1800 t, 粗タンパク質含有率8%以下)
- ・品質の格差を解消し、省力化による規模拡大に有効な基肥一発型肥料をメーカーと共同開発し、市販化予定

図1 窒素供給パターンと精玄米量との関係



### パターンA

基肥5.0+中間追肥 0+穂肥 I 2.5+穂肥 II 1.5 (kg/10a)

### パターンB(最適窒素供給パターン)

基肥5.0+中間追肥2.0+穂肥 I 2.5+穂肥 II 1.5 (kg/10a)

### パターンC

基肥7.0+中間追肥 0+穂肥 I 2.5+穂肥 II 1.5 (kg/10a)

【最適窒素供給パターンの特徴】  
生育初期から約100日間、一定の肥料が土壌中に持続



最適な肥効を再現し、施肥回数を4回から1回に減らせる専用肥料を試作

- ・多収 (600kg以上/10a)
- ・高品質 (粗タンパク質含有率8%以下) を実現

「京の輝き」に最適な基肥一発型肥料を開発(メーカー2社市販化予定)

## 成果

- ・「京の輝き」の最適窒素供給パターン「基肥5.0+中間追肥2.0+穂肥 I 2.5+穂肥 II 1.5 (kg/10a)」を説明(図1)
- ・規模拡大に不可欠な施肥作業を軽減する基肥一発型肥料を開発、市販化予定。栽培マニュアルを作成

## 今後の展開

- ・タスクチーム活動により新肥料を普及し、省力的に高品質・多収を目指した酒米の栽培を推進します。
- ・「京の輝き」に係る新肥料の導入によって、酒造メーカーは品質の格差が解消され、新規生産者は安心して栽培できるようになります。